

〈本著作物について〉

本著作物の全部または一部を著作権者および株式会社岩波書店に無断で複製・転載すること、および放送・上演・公衆送信（ホームページ上への掲載を含む）などをすることを禁じます。

また、本著作物の内容を無断で改変・改ざんなどをすることも禁じます。

有償・無償にかかわらず本著作物を第三者に譲渡することはできません。

ぼくたちのまちづくり1

# ぼくたちのまち世界のまち

福川裕一文 青山邦彦絵



岩波書店

もくじ

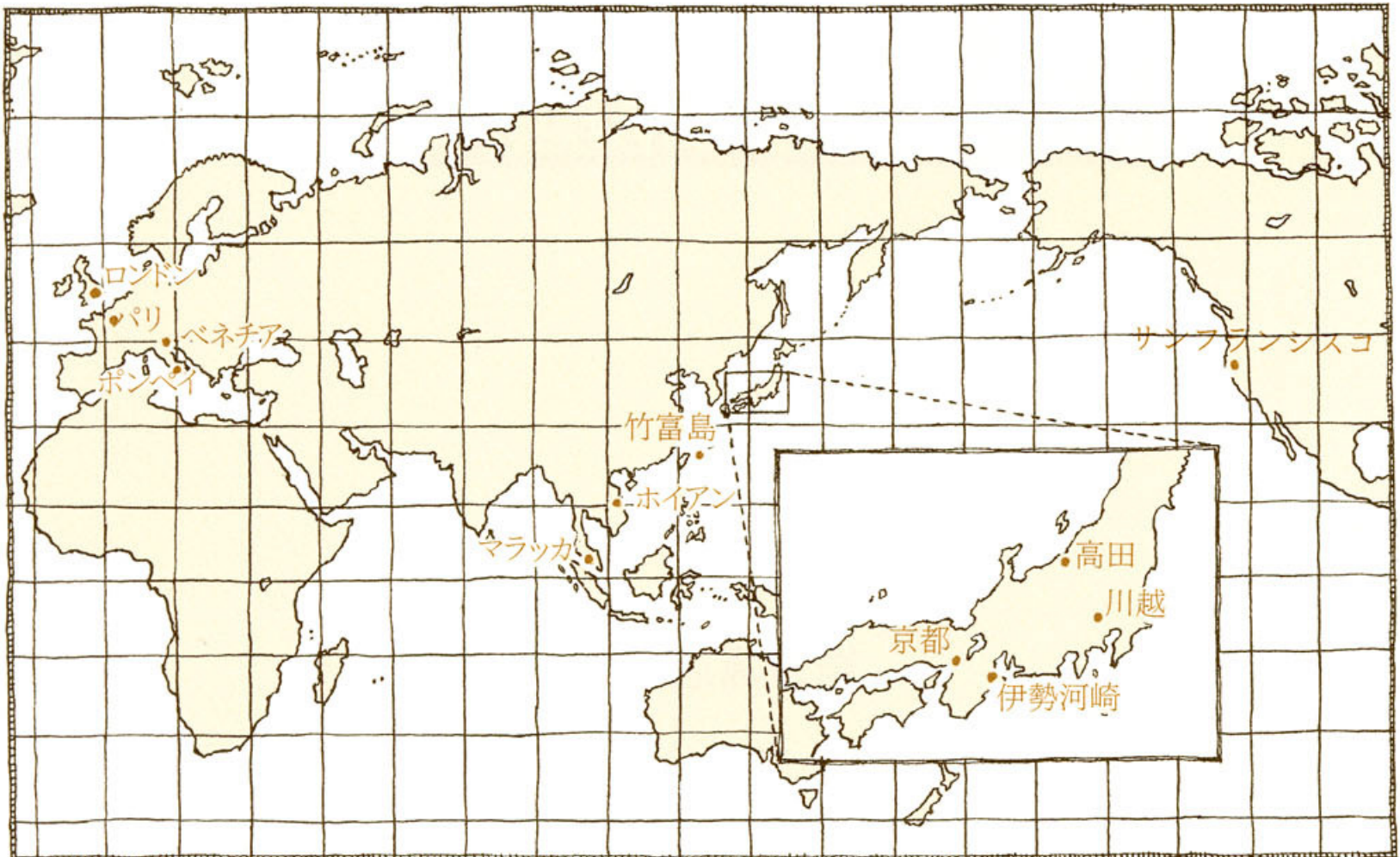
町並みをつくる家 3

町家博物館 16

アジアの町並み 32

ヨーロッパとアメリカの町並み 45

ぼくたちのまちと町並み 57





# 町並みをつくる家

## いろいろな町を見てきた

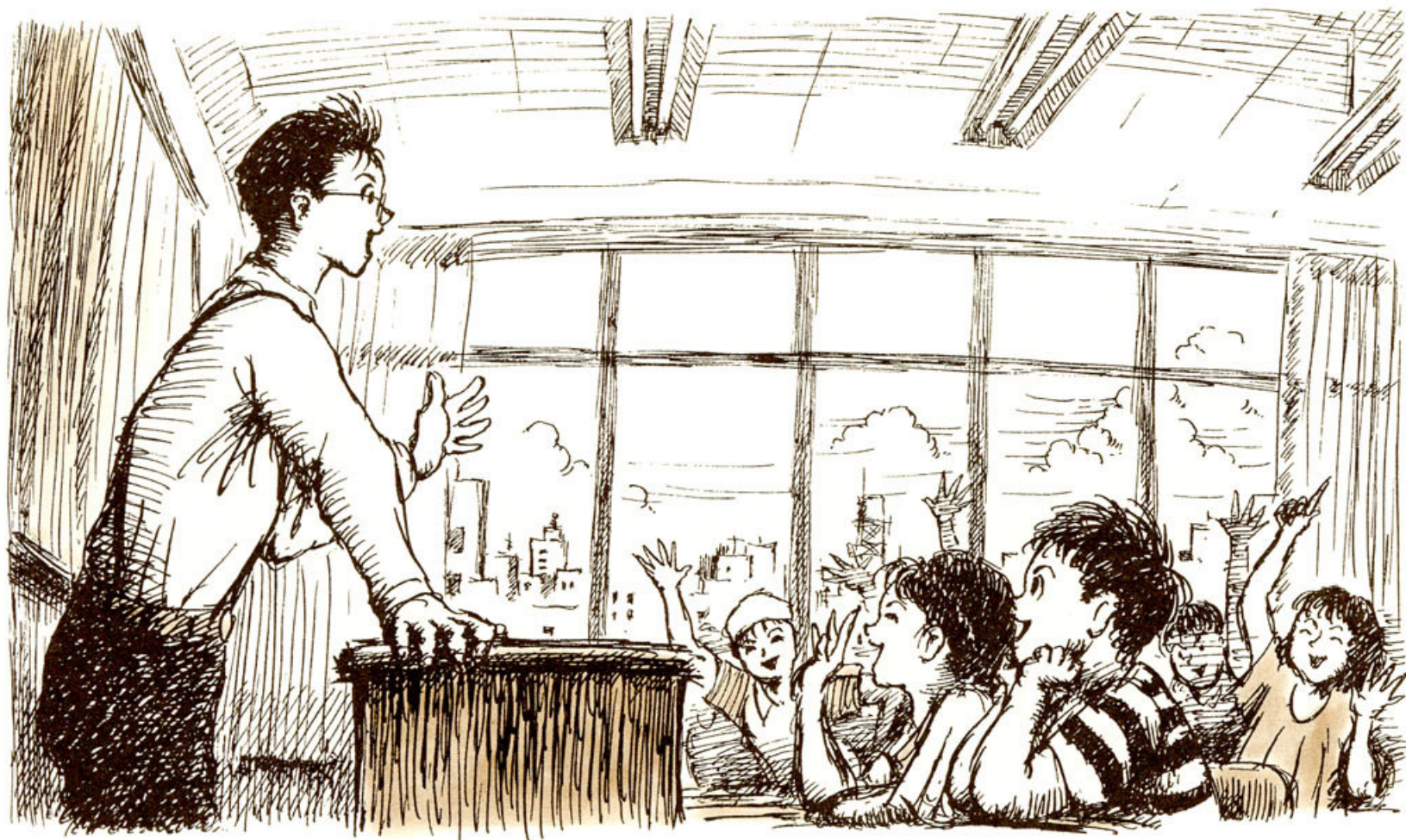
夏休みはどうだった？ 君たちの中で、休みの間にどこかよその町を見に行った人はいるかい？

ひだたかやま まちな がつしょうづく  
「飛騨高山の町並みと合掌造りの村を見てきた。」

くらしき  
「倉敷に行った。」

「どこにも行かなかった。」

それはかわいそうに、でも今度みんなで京都へ行くだろう？ 京都というと神社やお寺の見学が多くなるけれど、みんなとは町並みをよく見たいと思っているんだ、ほかにどこかへ行った人は？





「ベネチアへ行った。」

えっ、イタリアへ行ったの？ いいなあ。そうか、君はおとうさんがイタリアへ<sup>たんしんふにん</sup>単身赴任しているんだっけね。ベネチア以外に印象に残った町はあるかい？

「ぜんぶ。でもポンペイがおもしろかった。大昔の町なのに、今とあまり変わらなかったみたい。」

ポンペイは古代ローマの都市だね。<sup>せいれき</sup>西暦79年に、近くのベスビオ火山の<sup>ふんか</sup>噴火であつというまに<sup>かざんばい</sup>火山灰の下にうまってしまった。

じつは、先生も外国へ行ったんだ。ベトナムだ。ホイアンというとてもきれいな町があった。

「どんな町ですか？」

今話してもいいけれど、どうだろう、京都へも行くし、ちょっと世界の町にはどんな家があるか調べてみないか？





「おもしろいかな。」

「楽しそう。」

ところで、君たちが行った町は、君たちが住んでいる町とどこがちがっていた？

「人がたくさん来ていた。」

なぜ、たくさんの人があるんだろう。

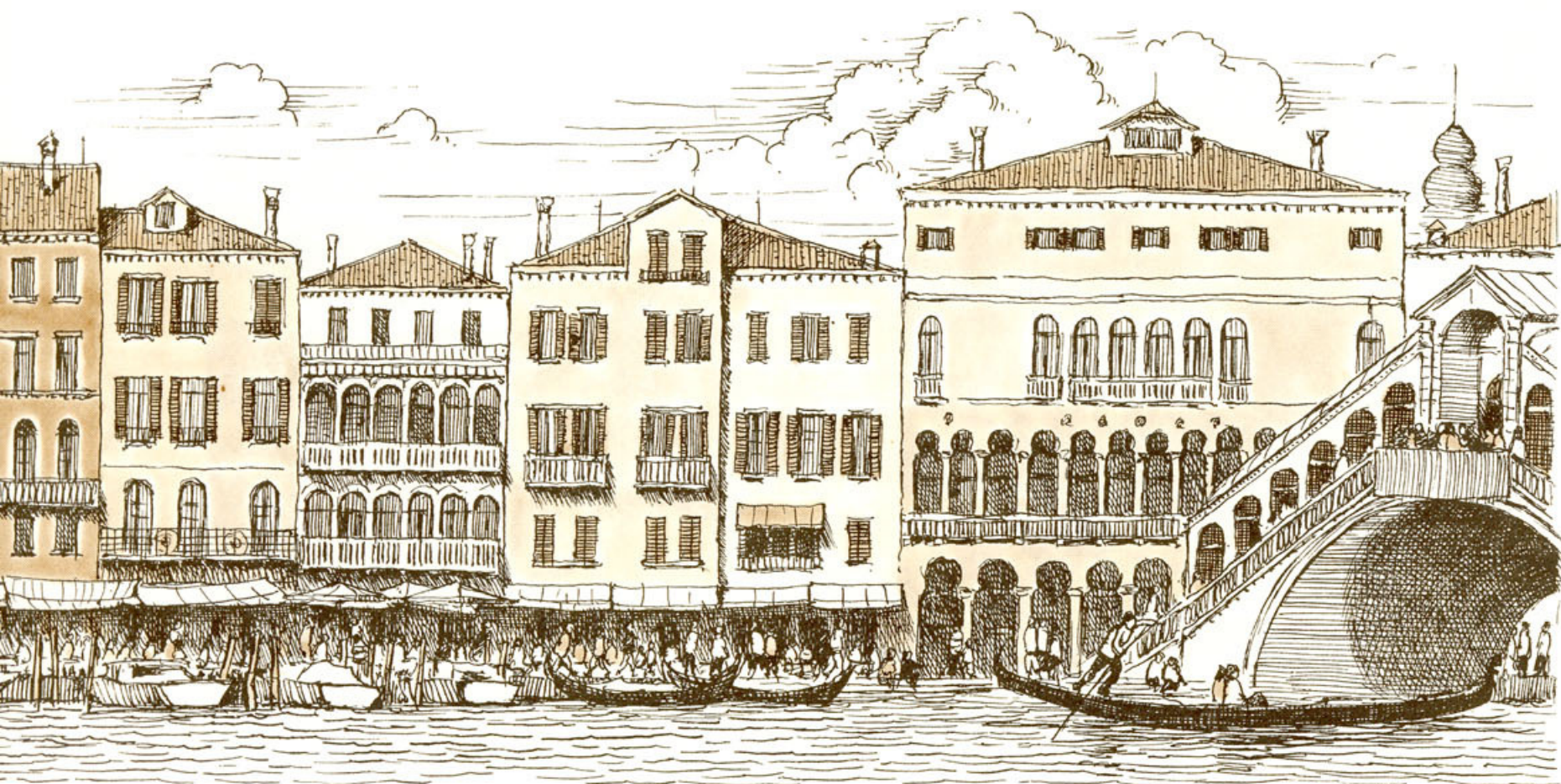
「きれいだから。」

「めずらしいから。」

「楽しいことがあるから。」

「めずらしいから」か。たしかに、よその土地だから、自分の町にはないものがある。みんな古い町だから、今の町には見られない建物が建っているね。

ところで、みんなは、いろんな町へ行って何をしたの？





「町並みを見て歩いた。いっぱい歩いたよ。」

「ゴンドラに乗った。」

「お店を見て回った。買い物もしたよ。」

「広場のカフェで何度も休んだ。アイスクリームを食べた。」

「家の中にも入ってみた。」

「びじゅつかん美術館みたいなところへ行って、ちようこく絵や彫刻を見た。」

「お寺も入った。」

「わたしは教会。いつも人が集まっておいのりしていた。」

楽しかったみたいだな。だけど、ふだん住んでいる町ではそういうことはしないの？

「休みじゃないもん。いそがしい。」





「いまさらめずらしくない。」

でも、君たちが行った町の人、君たちと同じように楽しんでいたんじゃないかと思うんだけど、どうだった？

「うん、夕方の広場は、町の人がいっぱい出てきてすごくにぎやかだった。」

「みんな、通りで花火をしていた。縁台えんたいを持ち出して、将棋しょうぎを指している人もいた。」

住んでいる人たちが楽しんでそうにしているのはいいね。ひょっとして、おおぜいおとずの人がその町を訪れるのは、ただ建物や町並みがめずらしいからではなくて、そこで生活している人たちがとても楽しそうにしているからじゃないのかい？ 町の人楽しそうにしているのは、よその人たちが見に来るほどきれいな町並みや建物と関係がある、と言えるんじゃないかな。

「でも、古い家は住みにくそうだって、おかあさんが言っていた。」

「わたしは住んでみたい。おもしろそー。」

そこだよ。たくさんたくさんの人をひきつける町の建物や町並みは、わたしたちの町とどこがちがっているのか、調べてみないとね。

ちょうどいい。ポンペイをとりあげて考えてみよう。ポンペイは2000年近くも前の古代都市だけど、もしたくさんたくさんの人が訪れるほかの町と共通点があれば、それはとても大切なことだと考えたほうがいい。そうだろう？

ポンペイに行ってきた君は、写真はとってきた？

「うん、たくさん。」

じゃ、こんど持ってきて見せてよ。



## ポンペイの住宅<sup>じゅうたく</sup>

「町の中心の広場です。正面に<sup>しんでん</sup>神殿が建っています。」

「これがポンペイの町並みです。お店が<sup>なら</sup>並んでいました。道の両側に歩道があって、反対側へは、車道におかれた飛び石をつたってわたりました。」

「パン屋さんです。パンを焼くかまどが並んでます。」

「おうちに入ったところの大きな部屋です。」

この部屋はアトリウムというんだ。

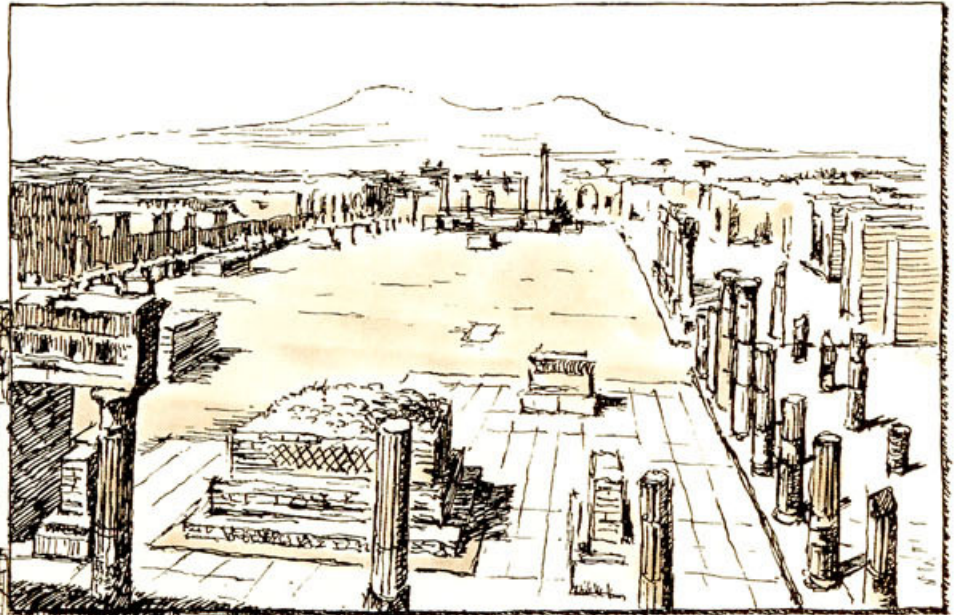
「おうちの<sup>かべ</sup>壁には、<sup>へきが</sup>壁画がかいてありました。」

「おうちのおくには庭があります。ポンペイの人は、庭がとても好きで、きれいにしていたそうです。」





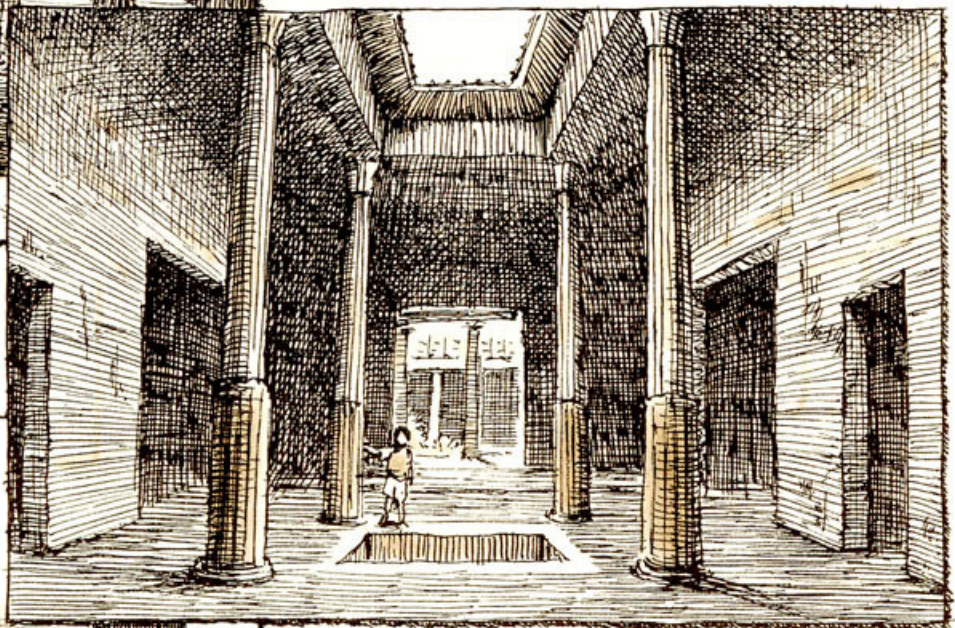
町の中心の広場▶



パン屋▼

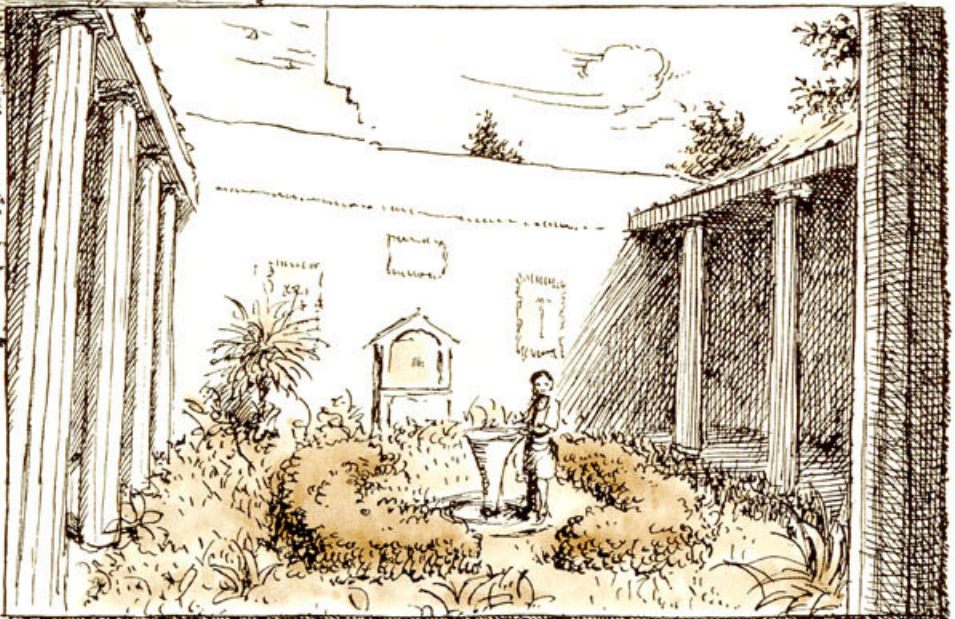


アトリウム▶



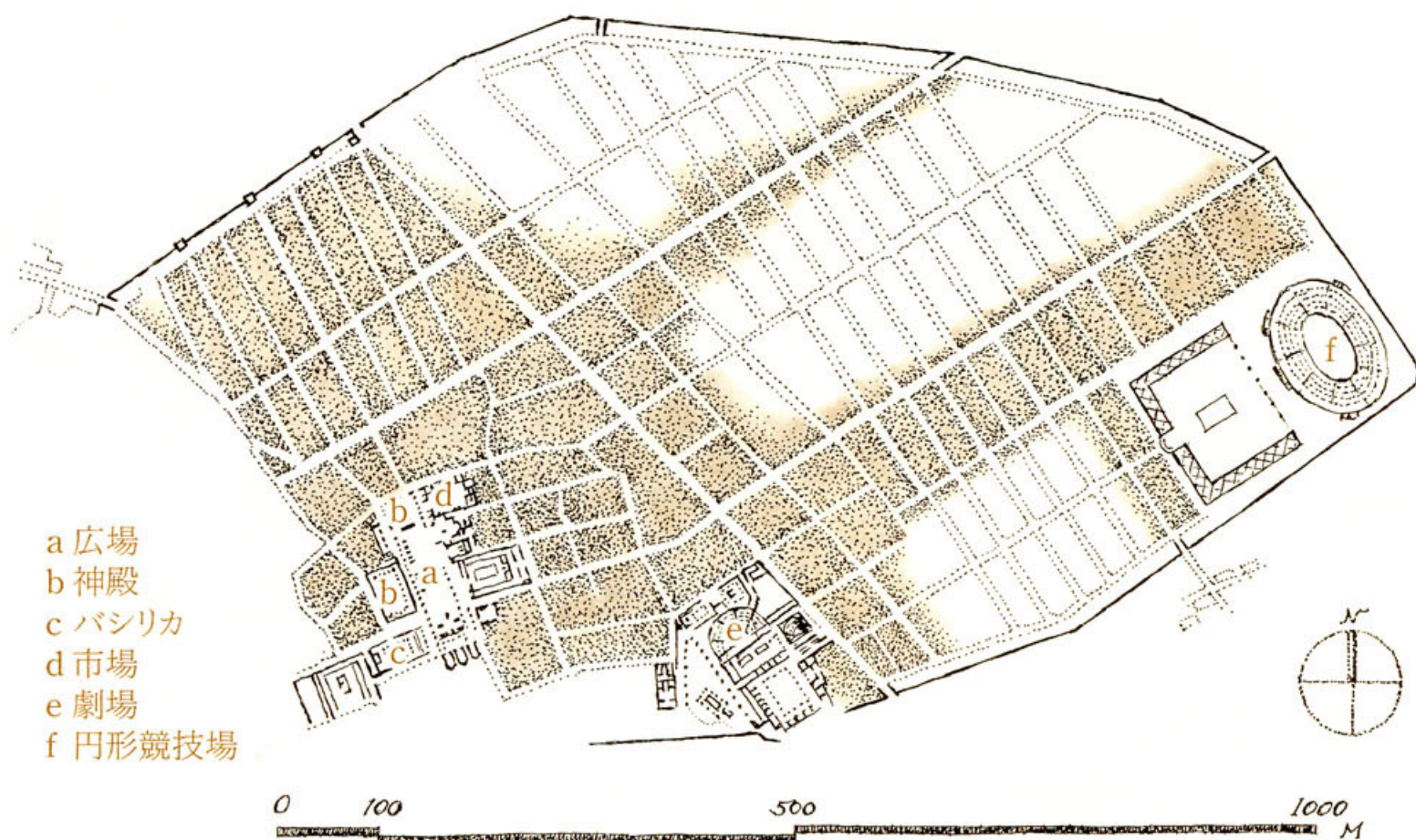
壁画▲

ペリスタイル▶





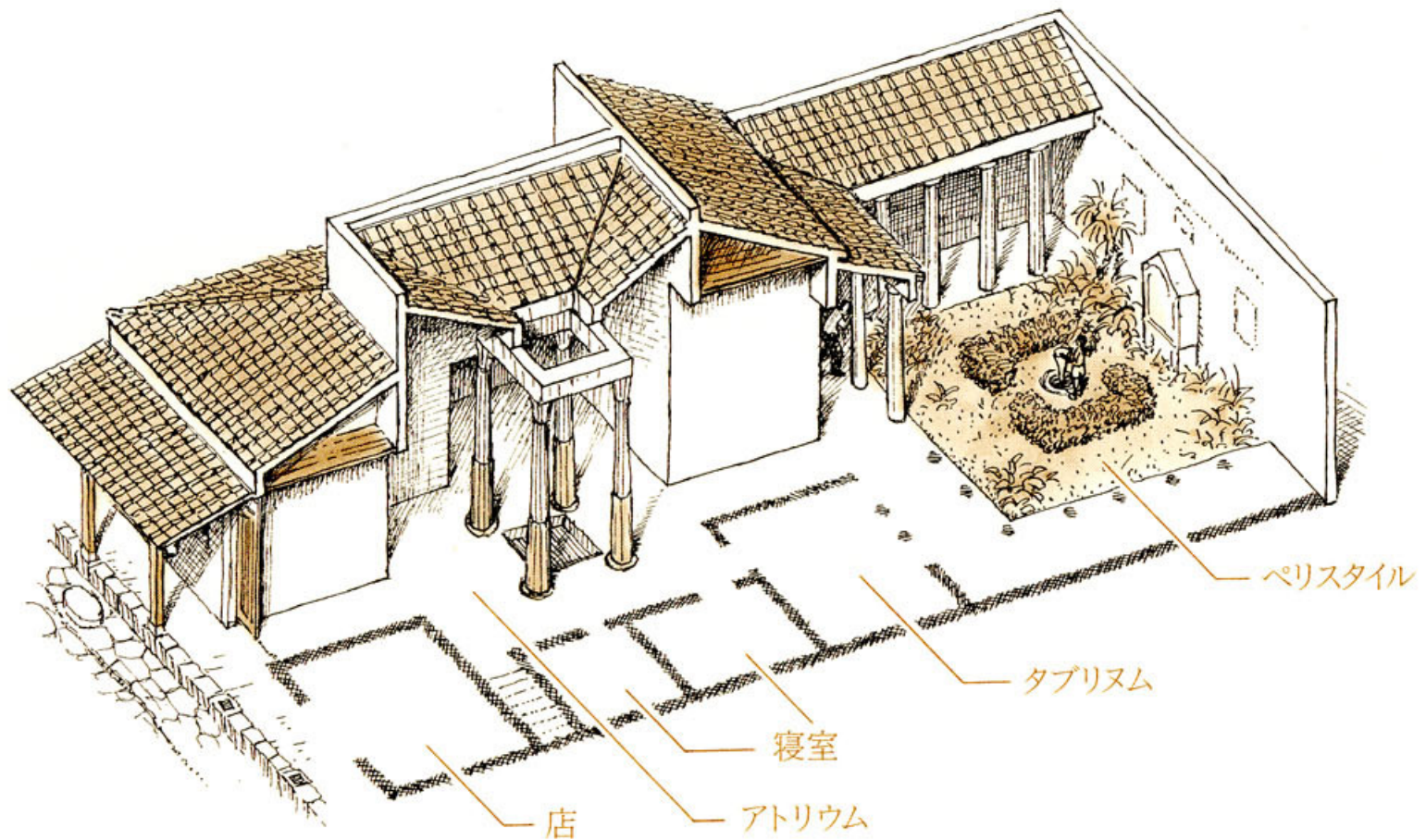
どうもありがとう。じゃあもう少し詳しく説明しよう。まず、ポンペイの地図だ。町は城壁に囲まれている。道路は碁盤の目のようだ。さっき写真で見た広場は南西の一角にある。神殿のほかには、市場、市役所、裁判所などの公共施設が並んでいた。



ぼくたちは住宅街のほうを見ないとね。さっきの町並みの写真をもう一度見せて。場所にもよるけど、<sup>がいろ</sup>街路ぞいの部屋はたいていお店に使われている。お店の正面には、ちょうど歩道をおおうほどのひさしがついていて、2階が歩道まではりだして、アーケードになっている家もあるね。

家の中へは、<sup>げんかん</sup>玄関を通りぬけて入る。入ったところがアトリウムだ。まわりに、<sup>しんしつ</sup>寝室、<sup>しょくどう</sup>食堂、<sup>しょさい</sup>書斎などの部屋が並んでいる。アトリウムのところは屋根がない。アトリウムは、大きな部屋であると同時に<sup>なかにわ</sup>中庭なんだ。おくにある庭は、まわりを柱の並んだろ





うかが取り囲み、ペリススタイルと呼ばれた。大きな家では、さらにこのおくにも部屋があった。

アトリウムとペリススタイルの間にある部屋をタブリヌムという。ポンペイの住宅でもっとも中心になる部屋だ。主人がここにひかえていて客をむかえた。入口からまっ正面にあるし、家中を見わたせる中心にある。大きな家では、季節によって部屋の使い方を变えて、たとえば夏はペリススタイルに面した部屋が食堂になった。

## 住まいをくらべる

さて、ポンペイの住宅と君たちの住まいとどこがちがうかな。気がついたことをあげてごらん？

「材料がちがう。」

君は、家の材料がなんだったかおぼえているかい？



「石だと思う。床はモザイクタイルを使って絵がかいてあった。  
屋根は…あれ？ 屋根は何だっけ？」

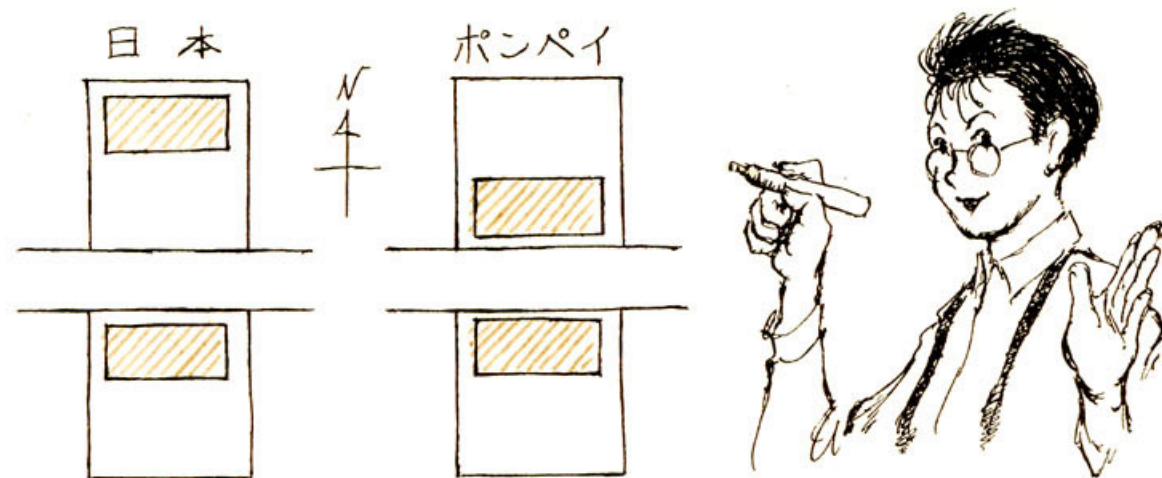
屋根はかわらだ。屋根や2階の床を支える骨組みは木だ。壁には、  
木で骨組みを組んで、あいだを石などでうめるという方法も使わ  
れた。壁はしっくい仕上げた。有名なポンペイの壁画はその上  
にかかれたんだ。ほかには？ 間取りはどうだろう？

「ぜんぜんちがう。」

「庭が後ろにある。」

後ろっていうのは、道路の反対側っていう意味だね。君たちの家  
にもそういう場合があるんじゃないか？ 君たちの家の庭は道路  
の位置と関係あるのかな？

「うんとね、わたしたちの家の場合は、南側に庭があります。」  
そうだ、よくわかったね。わたしたちの家の場合は、道路の位置  
とはあまり関係がない。



「わたしたちの家は、こんなふうに道路に接していない。」

「小さくても庭みたいのがある。」

「ポンペイの家は、となりどうしも接している。」

「それはポンペイの家がお店だからだよ。」



いや、ポンペイでは、お店でない場合も、建物は道路と面しているんだ。となりどうしは接するというよりも、同じ壁を両側の家がいっしょに使っている。ほかには？

「日本には、えーっと、アト…なんとか、がない。」

アトリウムのことだね。わたしたちの住宅には見られない部屋だけれど、ポンペイでは重要な<sup>やくわり</sup>役割を果たしていた。どんな役割を果たしていたのか考えてみて。

「えーと、明かりとり。」

そうだ。第1の役割は、まわりの部屋が明かりや新せんな空気を得られるようにすることだ。そのおかげでとなりの家と壁をくっつけることができる。

ほかには？

「ろうかだ。」

そうだ。第2に考えられるのは、部屋から部屋へ移動するときの通路としての役割だ。この家には、とくにろうかがないからね。もうないかな？

「……」

第3に考えられるのは、家の中心となる<sup>ひろま</sup>広間としての役割だ。食べる、仕事をする、ねる、などのことは、アトリウムをとりまく部屋でおこなわれたけれど、生活には、それ以外にも、することがいろいろあるよね。たとえば、ちょっと話をしたり、作業をしたり、ボヤっとしたり、あいさつしたり……。アトリウムはそういうことを一手に引き受ける場所だった。

「家の中の広場みたい。」

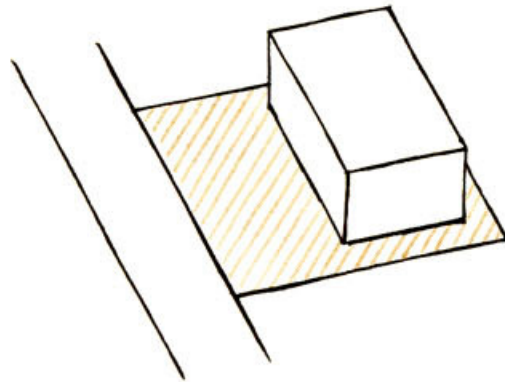
そう、そのとおりだ。広場に集まる人の多くは、これといった目



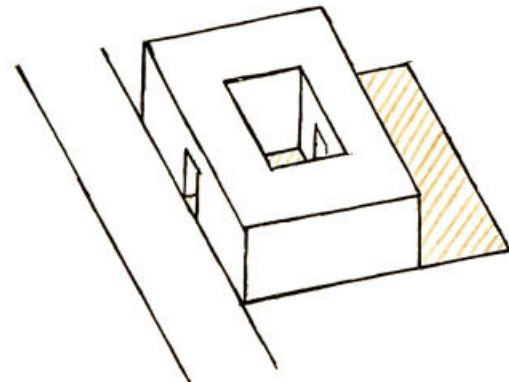
的があるわけではないからね。

こうして見ると、わたしたちの家は、まわりに<sup>あきち</sup>空地を残して、敷地<sup>しきち</sup>のまん中に建てられている。ポンペイの家は、敷地いっばいに建てて、まん中に空地を残している。ひとことでいうと、わたしたちの家は<sup>とつがた</sup>凸型、ポンペイのは<sup>おうがた</sup>凹型だね。

凸型



凹型



「わたしが行った<sup>たかやま</sup>高山の町並みは、わたしたちの家よりポンペイに近いみたい。」

ほう、なぜ？

「庭が道路の反対側にあるでしょ。建物が、道路とも、となりとも接しているでしょ。道路ぞいにはひさしがあるでしょ。それに、<sup>げんかん</sup>玄関をぬけたところは<sup>てんじょう</sup>天井のないふきぬけだった。天窗があってまぶしかったよ。それに沿って部屋が並んでいた。」

そうだ。君たちはほんとうにかんがいい。じつは、日本にもポンペイ型の家があった。高山もそうだし、今度みんなで見に行く京都もそうだ。こういう家を<sup>まちや</sup>町家と呼ぶ。農家に対して、都市の住宅という意味だね。町家は凹型で、農家は凸型だ。

「そうすると、わたしたちの家は農家に近いんですか？」

そうなんだ。日本の郊外<sup>こうがいじゆうたく</sup>住宅がモデルにしたのは<sup>ぶし</sup>武士の家だ。

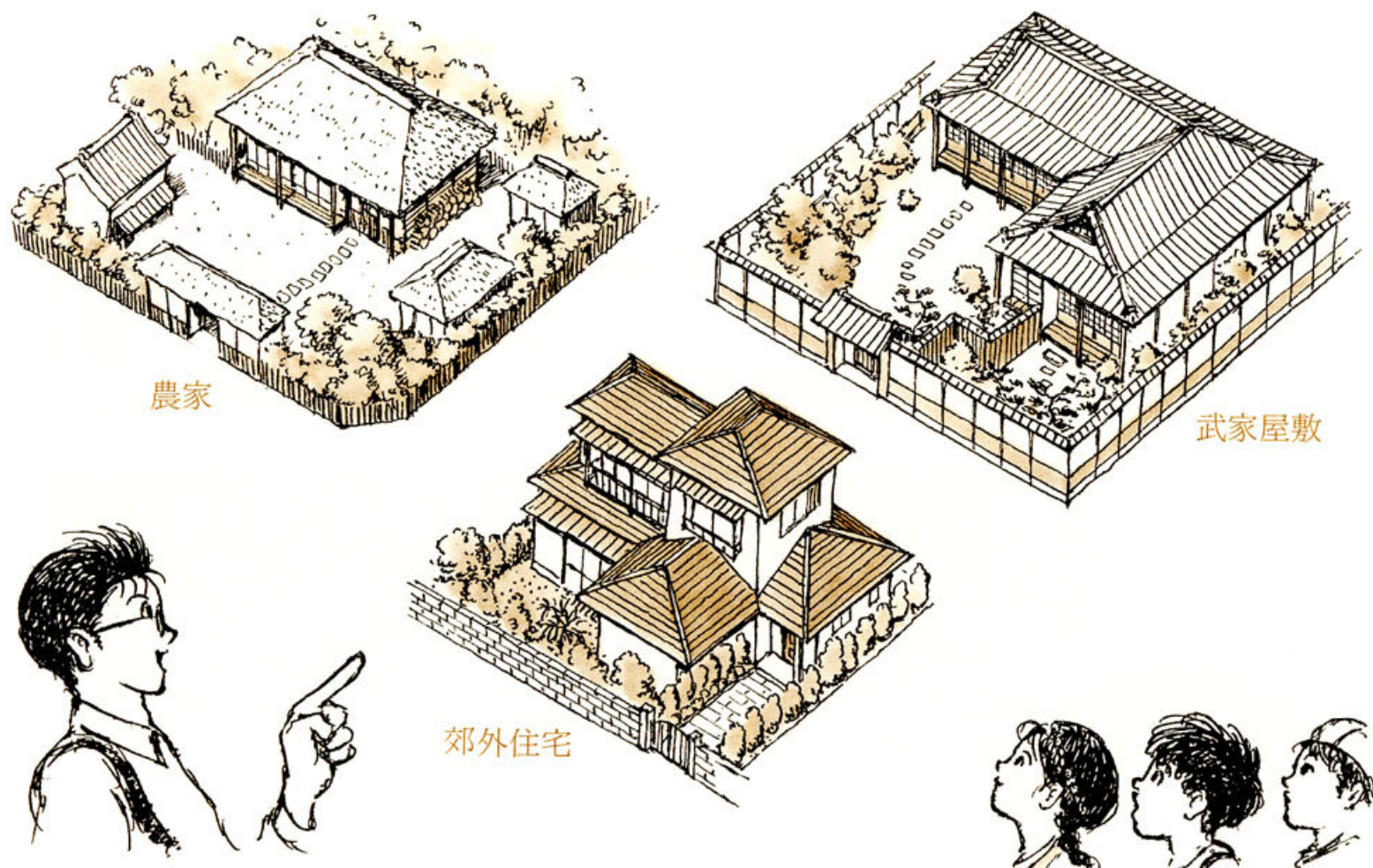


武士の家も都市にあったけれど、これはむしろ農家に近い凸型だった。古くからの町中でも、戦後は町家型はほとんどつくられなくなってしまった。

「どうしてですか？」

ウン、よくわからない。はっきりしていることは、世界中の、多くの人を訪れる町並みは、ほとんどが町家型からできているということだ。だから、町家の作り方の中に、今のわたしたちの家や町並みをもっと楽しくするいろんなヒントがあるのではないかな、と思うんだ。

次は京都だ。実際に町並みと町家を見学しながら、この問題を考えてみよう。





# 町家博物館

## 京都の町家<sup>まちや</sup>

さあ、着いた。これからこの家を見学する。ここに来るまでしばらく歩いてきたけれど、町並み<sup>まちな</sup>はどうだった？

「古くせー。」

「わたしは、古い建物もよく見るととてもきれいだと思った。」

「家がみんなつながっている。」

「家の中が見えそうで見えない。」

「緑がない。」

「マンションに建てかわった家がある。」





中へ入る前に、外側をよく見ておこう。まず、これは何だか知っているかい？ ぼったり<sup>しょうぎ</sup>床几だ。こうやってたおすと<sup>えんだい</sup>縁台になる。夏の暑いときは、夕方になったらここで近所の人と<sup>しょうぎ</sup>将棋を指す。

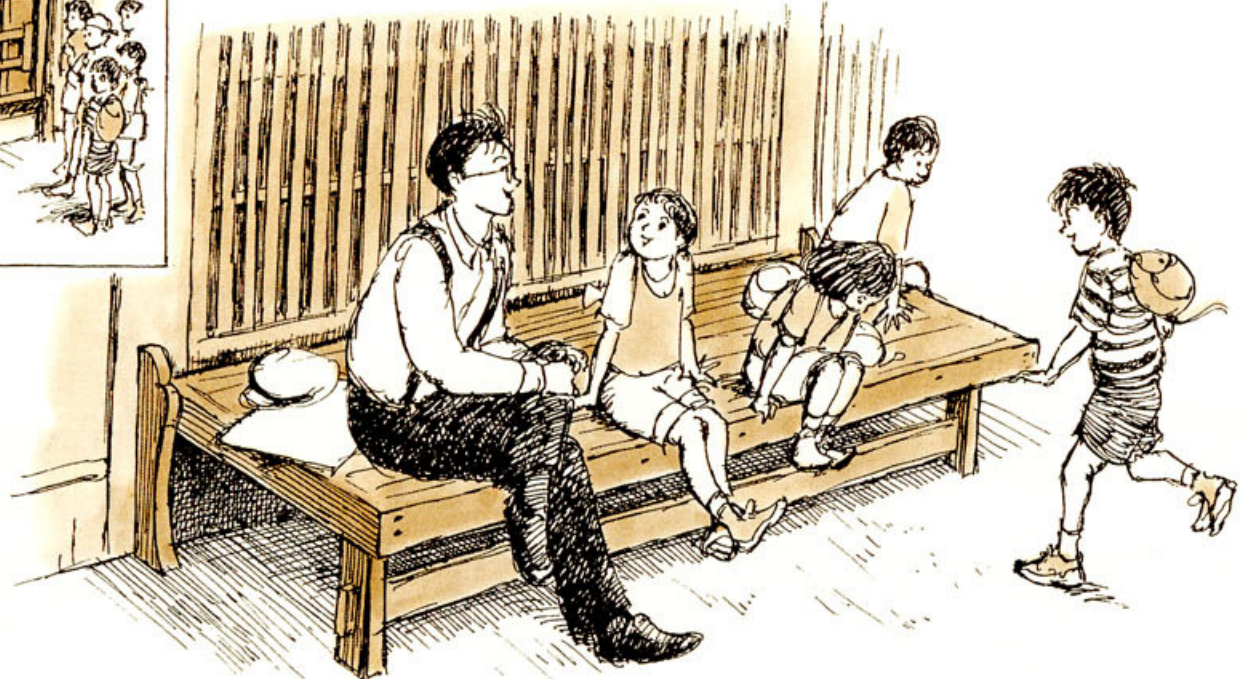
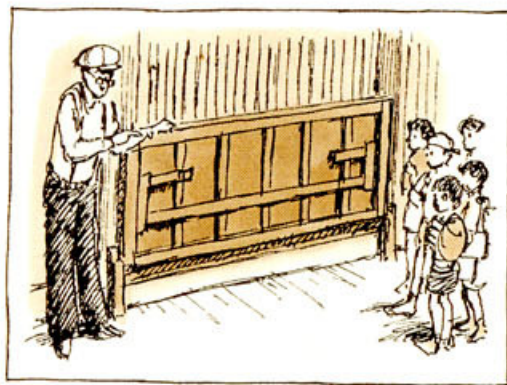
「花火のほうがいい。」

「ゆかた着て、スイカ食べるのにいい。」

アハハ、君たちにはだじゃれは通じないようだね。ともかく、これがあるだけで、通りがみんなの生活の場になる。ぼったり以外で特徴的なのは、やはり<sup>こうし</sup>格子だね。<sup>げんかん</sup>玄関の戸にも、<sup>まど</sup>窓にも、いろんなところに使われている。とくに正面の<sup>でまど</sup>出窓のように出っぱつているのは<sup>でこうし</sup>出格子と<sup>よ</sup>呼ばれる。どうだい、中は見えるかね。

「ほとんど見えない。」

それが格子のいいところさ。あとで中から表を見てごらん。今度はよく見えると思うよ。マジックミラーだ。そして夜は室内の明





かりで通りをやさしく照らし出すんだ。

「でも、夜は外から中が見えてしまう。すだれがそうだもん。」  
よく知っているね。それがイヤなときは、障子しょうじを閉めるさ。

さて、2階の窓も太い格子になっている。壁と同じように土で  
仕上げられているね。これは虫籠窓むしこまどと呼ばれる。土でぬり固めた  
のは燃えにくくするためだろうね。

「ろうやみたい。」

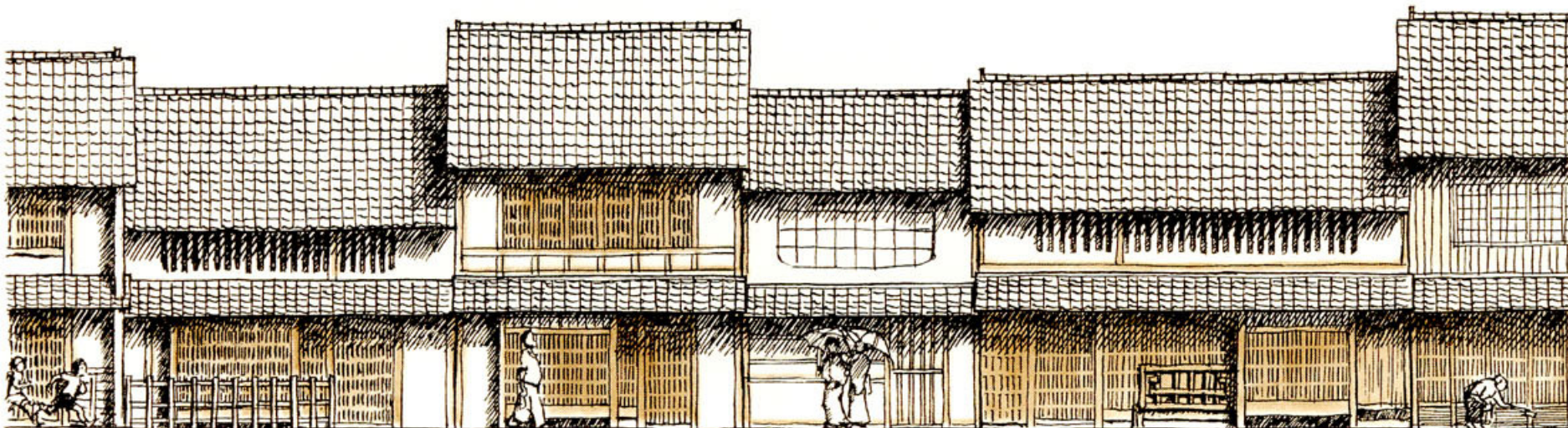
「ぼくは、お城しろみたいだとおもった。」

道路側の2階は天井てんじょうが低い。主に倉庫に使われたんだ。まわりの  
家を見てごらん。1階と同じ木の格子をはめた家や、ガラス窓の  
家もあるね。そういう家は2階の背が高い。時代とともに、2階  
も部屋に使われるようになっていったんだね。逆ぎやくに言うと、2階  
の高さを見て、町家の古さを知ることができる。

ほかに何か気づいたことはないかな？ ポンペイの家にもあっ  
たんだがな。

「ひさしだ。」

ピンポン。ひさしの話はまた今度することにして、とにかく中  
へ入ろう。





「こんにちは、ごめんください。」

「おこしやす。」

しょうかいしよう。学芸員の岡田さんだ。きょう、中を案内してくれる。

「こんにちは。みんな中へ入った？ それでは説明します。この建物は、明治時代の初めに小間物屋さんとして建てられました。少し前まで人が住んでいましたが、空き家になったので、今は町家博物館となっています。この博物館の目的は、町家のことをよく知ってもらうことと、古い町家を現代の生活にあわせて使ったり、直したりする方法を研究したり、そのための相談にのったりすることです。

さて、みんなが立っているところは玄関です。玄関の土間は、わたしがいま出てきた中戸から、まだずっとおくまで続いています。おくのはなれまでくつをはいたまま行けるんです。で、通り土間と呼ばれています。中戸のところには、のれんをかけて、戸をあけてもおくまで見通せないようにしてあります。

この玄関に面した部屋を店の間といいます。小間物屋さんだったことはさっき言ったわね。けれど、大正時代にはお店をやめて、

